

世界各地、多様な職種で活動する海外協力隊員の活動をご紹介します！

構成／倉石綾子

ダラット市を国際観光都市に！ SNSを駆使して発信する

三好秀雄さん 青年海外協力隊(2019年度3次隊ベトナム派遣)



上：観光促進課の同僚たち。右から2番目のスタッフが日本語のレッスンをしている。右上：ブログ用の取材で訪れた、標高1950メートルのランピアン山。ベトナム主要都市にはない大自然を感じられるスポットとしてベトナム人に大人気。



MIYOSHI Hideo

出身地・大阪府 職種：観光
任期：2021年3月～



動しているさまを間近に見て大いに刺激を受け、協力隊への応募を決心しました。

私が配属されたのは、ベトナムのダラット市にオフィスを構えるラムドン省の観光促進課。ダラット市は国内で人気の避暑地ですが、一方で外国人観光客の割合が少ないことが長年の課題でした。観光促進課は、国際観光都市を目指して外国人観光客を誘致し、観光収入を得るための活動に取り組んでおり、私もこの活動に携わっています。具体的には、SNSを通じてダラット市の観光情報やグルメ情報、現地での生活を日本語で発信



もっと知りたい
海外協力隊員の活動

世界各地で活動する海外協力隊員の活動をこちらでチェック



左：隊員活動とは別に、ダラット大学で日本語を学ぶ学生たちと交流している。彼らの日本語学習への熱意に学ぶことも多い。下：「ベトナムのパリ」という別名をもつダラット市には、フランス統治時代の建築物が数多く残る。



左上：ダラット市が開発される以前からこのエリアに暮らしている少数民族のコホ族。自治体が開催する、民族の文化に焦点を当てたイベントに出席した。右上：「ダラット野菜」のひとつ、名産のキノコ狩りを取材した様子。



ベトナム事務所から

赴任直後から種々のメディアを駆使して情報発信に取り組む三好さん。この街の魅力を伝えるという熱意と意気込みにあふれています。ベトナムの人たちとさらに関係性を深めながら、任地の魅力を伝えてくれると期待しています。(企画調査員 烏中啓子)

するほか、外国人旅行者の利用が多い観光アプリに店舗や施設の登録を促す活動を行っています。

活動においては、ベトナム人上司や同僚と信頼関係を築くことを心がけています。ブログやSNSで発信した内容をすべてベトナム語に翻訳して活動報告として上司に提出したり、同僚からの食事の誘いはなるべく断らず、時間をともにしたりしています。また、業務時間外には日本に興味をもつ同僚に日本語を教えています。このようにオンオフを問わないコミュニケーションを大切にしていきたい

と考えています。

コロナ禍以降に派遣された第1号隊員としてここに赴任できました。配属先、そして派遣を支えてくれる多くの方々に感謝する毎日です。コロナ禍の外出制限で取材活動もスムーズにはいきませんが、いまだ派遣に至っていない同期隊員の思いを胸に、彼らのぶんまで精いっぱい、活動していきます。日々の取材を重ねてダラット市の歴史や文化、風土に親しみ、多くの日本人旅行者に訪れてもらえるよう、さらなる魅力を広く発信していきたいと思っています。

SMALLTALK

少数民族が代々栽培する希少なコーヒー豆

高原地帯のダラットは気候がよく、「ダラット野菜」というブランド野菜があるほど農業が盛ん。なかでも、少数民族のコホ族がダラット市郊外で栽培するコーヒー豆が人気を集めています。コホ族のローランさんの家族が1960年代に始めた農園、「コホコーヒー」では、現在、ローランさんとアメリカ人の夫のジョシュさんが、環境に配慮した栽培方法でアラビカ種の高品質なコーヒー豆を栽培して世界各国に輸出しています。日本で開かれたコーヒーイベントに出店したこともあります。日本でこのパッケージを見かけたら、ダラット産のコーヒーを味わってください。



ベトナム・ダラット
観光通信ブログ

三好さんが隊員として発信するベトナムとダラットの最新情報をこちらからご覧いただけます。